

## II 検討テーマ（地域課題）について

### 1. 検討テーマの選定について

区民会議の主な役割は、区における地域の課題を区民が主体となり地域で解決を図るための方針や具体的な方策などについて調査・審議を行うことです。中原区区民会議では、地域が抱えている様々な課題（区民会議委員が日々の活動や生活を通して、検討する必要があると感じる課題や区役所が業務を通して把握した課題、区民から寄せられた課題）の中から緊急性や重要性を勘案して運営部会で検討テーマとして選定します。

### 2. 第3期中原区区民会議検討テーマ（委員案）

委員が提案したテーマを紹介します。

#### (1) 防災又は地域交通の向上など安全で快適な暮らしを支えるために

- ・災害を防止する「防災訓練」(富岡委員)
- ・町内会・自治会、地区社協、地区民協、行政が一体的となった災害対策の構築(青木委員)
- ・鉄道駅周辺の放置自転車の解消(芳賀委員)
- ・自転車の乗り方マナー(岡本委員)
- ・地域防災ネットワークの充実(松本委員)
- ・自転車走行における問題(矢野委員)
- ・歩きタバコの禁止、喫煙場所の設置(矢野委員)
- ・防災・避難所の周知と被災時の対処法(大下委員)
- ・防犯対策・空き巣や自転車盗難が何故無くならないのか(大下委員)
- ・自助努力で災害時(地震・水害等)に、小地域でどこまでネットワークができるか(杉野委員)
- ・地域防災の担い手の育成(松原委員)
- ・自転車も運転免許制へ(松原委員)
- ・綺麗で清潔な街づくりに取り組む((4)に再掲)(稲富委員)

#### (5) 産業の振興、都市拠点の形成などまちの活力を高めるために

- ・中原区の産業の広報(農業→地産地消)(工業→等々力工業会)(鈴木委員)
- ・道路の整備(矢野委員)
- ・再開発事業の中で、地域の活力、商業の活性化、空間的ゆとりある暮らしの実現(板倉委員)

#### (2) 福祉の推進、健康の増進など幸せな暮らしを支えるために

- ・ますます高齢化社会！お年寄りに娯楽の提供をしたい(川連委員)
- ・高齢者に優しいまちづくり(不便や寂しさを感じている人)(岡本委員)
- ・日常的な世代間交流が希薄になっている為、場の提供が必要((3)に再掲)(川崎委員)
- ・福祉のまちづくり、地域福祉コーディネーターの育成(松本委員)
- ・高齢者による公園を活用した子育て支援((3)、(7)に再掲)(吉房委員)
- ・ボランティア不足の解消((7)に再掲)(杉野委員)

#### (3) 子育て、教育などを育て心を育むために

- ・地域の中で子育て支援の充実(村山委員)
- ・子育て支援・教育(富岡委員)
- ・子育てをしている母親に対する取り組み(藤嶋委員)
- ・乳幼児段階への心の教育による、犯罪・非行に向かう芽を摘む(青木委員)
- ・子育て(小・中・高)支援(芳賀委員)
- ・父親の子育て参加(松本委員)
- ・大人のマナーアップ(青少年健全育成)(松本委員)
- ・社会教育・先輩から後輩へ伝承する心の成長支援(大下委員)
- ・子ども支援・子どもの遊び場作り(大下委員)
- ・高齢者による公園を活用した子育て支援(吉房委員)
- ・日常的な世代間交流が希薄になっている為、場の提供が必要(川崎委員)

(4) 緑の保全、ごみの抑制など自然環境又は生活環境を向上させるために

- ・地域で取り組む環境対策(村山委員)
- ・多摩川を軸とした自然回帰(多摩崖線～井田山へと繋ぐ水と緑の確保)(鈴木委員)
- ・ごみの集積場所以外に大型ゴミがある(藤嶋委員)
- ・温暖化対策(芳賀委員)
- ・発展している中原を元気で心豊かなまちに
  - ・各エリアで特徴を伝える
  - ・自然体験(岡本委員)
- ・地域温暖化対策(寺岡委員)
- ・環境の取り組みによるコミュニティの活性化(寺岡委員)
- ・綺麗で清潔な街づくりに取り組む(稲富委員)

(6) 文化又は観光の振興などまちの魅力を発信するために

- ・音楽のまち“中原”の創設(川連委員)
- ・ストリートミュージシャンの演奏場所について((7)に再掲)(反町委員)

(8) その他、地域課題を解決するために

- ・区民から取り上げるテーマを直接聞く方法を検討する(川連委員)
- ・区民会議の傍聴者が少ない(区民の関心が無いのが現状)(吉房委員)
- ・地域に密着した課題として、良い点・悪い点を出して解決していく(吉房委員)
- ・全てのマナーが悪いので、一つのマナーが守られれば全てのマナーが良くなる(吉房委員)
- ・第1・2期の検討テーマに対する取り組み後の継続検証(松本委員)

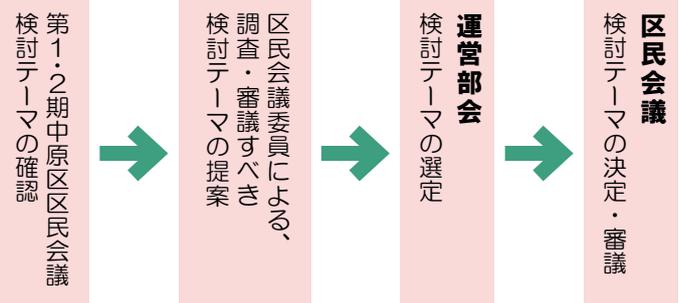
(7) 地域住民組織活動、まちづくり活動など市民自治を推進するために

- ・地域商店街と連携した活性化まちづくり(寺岡委員)
- ・区内の施設を活用した“居場所”の提供(川崎委員)
- ・コミュニティ・地域の仲間づくり(鈴木委員)
- ・たまり場の創出(富岡委員)
- ・公園などで早朝から若い男女のグループがたむろしている(藤嶋委員)
- ・地域力の醸成(青少年や若者がまちづくりへの意識を醸し出す取り組み)(松本委員)
- ・世代間交流の場づくり(松本委員)
- ・地域内での区民交流の促進(特に世代間交流の場の創出)(板倉委員)
- ・地域連携・地元区民と転入区民のコミュニケーションの場作り(大下委員)
- ・ご近所問題・隣に住む方との面識がない?「遠くの親戚より近くの他人」は中原区には浸透しているのか…(大下委員)
- ・武蔵小杉再開発エリアの住民に向けた情報発信(反町委員)
- ・若者の地域参画の為の仕組みづくり(反町委員)
- ・ストリートミュージシャンの演奏場所について(反町委員)
- ・イベントに参加して、地域の人との出会いや、人との絆、交流を広めたい(杉野委員)
- ・新しく中原区に居住される方々と現住民とのコミュニティに取り組み、地域組織活動の活性化を図る(稲富委員)
- ・高齢者による公園を活用した子育て支援(吉房委員)
- ・ボランティア不足の解消(杉野委員)

(注1) 下線の項目は、分野が重複するため再掲をしています。

### 3. 検討テーマ（地域課題）の選定の流れ

検討テーマは、右の手順で決定し、審議を行いました。





## III 検討テーマ（地域課題）の審議と取り組みについて

### 1. 検討テーマ1：「安全・安心のきずなづくりに向けて」

第3期1つ目のテーマは、区民会議委員の中で最も関心が高かった「安全・安心のきずなづくりに向けて」。平成22年度第2回と第3回で議論を行いました。

第2回区民会議では、防災に関する身近な制度について説明を受け、区民会議委員が考える取り組みのアイデアについて意見交換しました。課題調査部会では、地域での防災訓練などの実施状況や区民意識を調査し、解決に向けた取り組みを検討しました。

これらの審議をうけ、第3回区民会議で、安全・安心のまちづくりに向けた具体的な取り組み事項をまとめました。

#### （1）現状及び課題の把握

平成22年10月13日に開催された第2回区民会議では、身近な防災に関する制度などの現状や地域福祉実態調査により区民のニーズを把握し、「安全・安心のきずなづくりに向けて」どのように取り組んでいけばよいかを検討しました。

#### ■ 身近な防災の制度

名称	災害時要援護者 避難支援制度	第2次災害時一人も 見逃さない運動	避難所運営会議	ひとり暮らし等高齢者 見守り事業 ※高齢者支援制度
制度概要	●災害時に自力で避難することが困難な災害時要援護者の方から名簿登録の申込みをしていただき、地域の支援組織に名簿情報を提供し、地域において共助による避難支援体制づくりを行う。	●民生委員児童委員の日頃の活動を通じて、ひとり暮らし高齢者や高齢者だけの世帯、乳幼児を抱える世帯など、要援護者の情報を収集している。この情報を災害発生時に役立てようとする運動。（平成22年11月末日まで）	●避難所ごとに地域住民と行政機関が一体となって避難所運営を行うことが必要であるため、地域の自主防災組織を中心として、施設管理者、ボランティア等による避難所運営会議を構成し、避難所の管理運営を行うものとする。	●地域の実情に通じている民生委員の協力のもと、担当地区のひとり暮らし高齢者世帯の世帯状況や身体状況等の実態を把握し、ひとり暮らし高齢者等の話し合いの機会を増やし、安否の確認に役立て、見守りネットワークづくりに活用していく。
実施者 （支援組織）	●町内会・自治会・自主防災組織（住民組織）の代表者	●各地区民生委員児童委員協議会	●自主防災組織を中心とした組織 ●施設管理者（学校）、ボランティア等	●民生委員児童委員
制度所管	●総務局危機管理室、健康福祉局地域福祉課共管	●全国民生委員児童委員連合会	●中原区役所地域振興課	●健康福祉局高齢者在宅サービス課

## (2) 審議内容

### 《防災訓練の実施からコミュニティ形成》

- 地域で実施する防災訓練への参加者は多い。訓練をすることでコミュニティが生まれるのではない。
- 既存の組織、イベントを活用し、コミュニティ形成の活性化を図れるのではない。
- 区民会議が声かけをして、既存組織を連携させ、防災訓練の実施ができるか。
- 中学校区や全区一斉の防災訓練ができないか。

### 《コミュニティ形成・人間関係構築》

- 自分の命は自分で守る、自分たちの街は自分たちで守る。向こう3軒両隣の人間関係が大切である。
- 災害時の声かけなど、互助の精神が大切。
- 地域の危険個所の地図を作るなど、簡単なこと・出来ることから始めることでコミュニティは作られる。

### 《既存組織・制度の連携》

- 民生委員では、「災害時一人も見逃さない運動」で、高齢者・ひとり暮らし老人などは把握できているが、障害者に関してはできていない。抜けている情報を補い、マップを完成させ、地域の自主防災組織と連携して訓練を実施したい。
- 自助努力でどこまでできるか考える必要がある。向こう3軒両隣・町内会・民生委員などがどのように連携できるのか。さらに、行政がどのように連携できるのか検討が必要。

### 《情報発信》

- 会議で紹介された防災に関する制度を知らなかった。また、災害時には若い力が必要である。若者が集まるイベントで制度について情報発信したらどうか。
- 人が多く集まる場所に、防災の備えなどの掲示物や自分の避難所の地図などを貼りだしては。また、「こんにちは赤ちゃん事業」の訪問の際に地域の避難所が何処かなどをお知らせしてはどうか。

### 《子育て世代への対策》

- 子育て世代への防災意識の啓発が必要である。
- 乳幼児を抱えた家庭向けの防災ハンドブックを作成し、子育て世代に必要な情報提供や意識づけを行っていく

### 《その他》

- 問題点が多岐にわたっている。アイデアを絞ってまとめていく必要がある。
- 区民会議は審議機関ではあるが、区民会議として何ができるかを考える必要がある。
- 武蔵小杉駅周辺再開発地区では、独自のワーキンググループが立ち上がり、消防署や警察署と連携して防災の勉強会を実施している。

### 課題調査部会での検討

- 「自分の身は自分で守る。」備えを行っている人がどれ位いるのか把握した上で、区民会議としての対応を考える必要がある。
- 町内会・自治会、自主防災組織などから、回覧板・掲示板を通じて防災訓練参加の呼びかけをしているが、徹底されていない部分もある。参加の呼びかけ方法など区民会議で考えてもよいのではないか。
- 「防災訓練にはどれ位の参加者がいるのか」「どのように実施されているのか」など実態を把握する必要がある。



- ★避難所運営訓練に参加して実態を把握しよう
- ★イベントでアンケート調査を行おう

### 避難所運営訓練に参加しました

11月14日(日) 上丸子小学校

11月28日(日) 中原中学校

課題調査部会での審議により、地域で行われている「訓練」に参加して、訓練の様子を肌で感じるとともに、



訓練参加者へ「実施における課題・問題点」を聞き取るアンケートを実施しました。

### 子ども未来フェスタに参加しました

11月27日(土) 中原区役所

子育て世代の防災意識調査をするためイベント参加者へアンケートを実施しました。



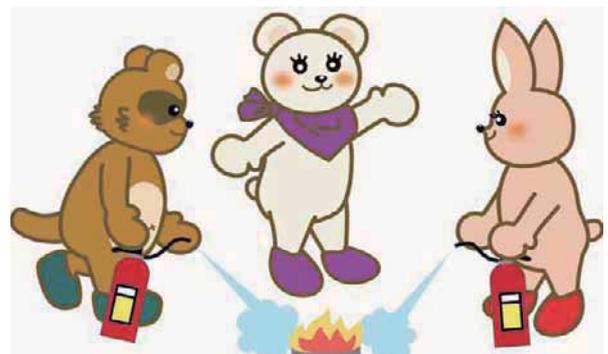
### (3) 課題解決に向けた取り組み事項

平成23年1月19日に開催された第3回区民会議では、課題調査部会における審議を受けて、「安全・安心のきずなづくりに向けた取り組み事項」をまとめました。今後は、これらの取り組み事項に基づいて、区民会議委員と地域団体、区役所をはじめとする行政がそれぞれの役割に応じて課題解決に向けた取り組みを実践していきます。

#### ■ 検討テーマ「安全・安心のきずなづくりに向けて」取り組み事項

	取り組み内容	具体的な実行方法 (解決策)	実行主体 (協力依頼 団体)	実施スケジュール					
				23年 1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～ 12月	24年 1～3 月	
地域・区民・区民会議の取り組み	区民の防災意識の向上 ●防災訓練の参加者からは、日頃からの備えの必要性の声が多く寄せられた。	区民会議委員出身団体における防災意識の向上	●区民会議委員出身団体等で「ぼうさい出前講座」の開催することで、より多くの方へ防災意識を持ってもらうようにする。	区民会議各団体	中原区商店街連合会	水辺の楽校	PTA 中原区		
	●若い世代では防災に備える意識が低かった。	子育て世代における防災意識の向上 ●中原区は20～30代が7区で一番多い区である。	●地域の方が運営する子育てサロンなどで乳幼児子育て世代向けの「ぼうさい出前講座」を開催し、若い世代への防災意識の向上を図る。	各地区子育て支援推進委員会 各地区民生委員児童委員協議会	子育てサロン(紙芝居)	小杉地区子育て支援推進委員会	玉川地区子育て支援推進委員会		
区民と行政の協働の取り組み	既存組織の連携強化 ●災害時の地域での活動の核となる避難所運営会議を円滑に運営するためには、自主防災組織、学校、PTAの連携が欠かせない。訓練参加者からも「地域での連携が難しい」という声が多く寄せられた。	●避難所運営会議の連携を図るため、自主防災組織、学校、PTAを構成員とした「防災ネットワーク連絡会議」を毎年、定期的で開催することで避難所ごとの連携を強化する。	自主防災組織 学校 PTA 中原区役所		避難所代表者会議での協議	避難所代表者会議での協議			
	防災訓練未実施地区での訓練実施 ●訓練を実施していない地区では、多くの方が避難訓練の未体験者と想定されるため、訓練の実施を呼びかける必要がある。	●地域の自主防災組織に訓練の必要性を一層認識させ、訓練未実施地区に対して、小中学校を拠点とした訓練を計画的に実施する準備を行っていく。	自主防災組織 学校 PTA 中原区役所	取り組みの実行		防災訓練の実施(59団体)			
	区民の防災意識の向上	●区民の防災意識の向上を図るため、防災に関する講演会(フォーラム)等を開催する。	自主防災組織 中原区役所				防の災中原区 開催エ ア		
		●区民の防災意識を啓発することを目的に市民提案型事業において「防災意識向上事業」を実施する。中原区が実施する既存のイベントを活用して、イベントに参加している区民に防災への意識を高める事業を実施する。	各団体 中原区役所 区民会議	事業実施団体の募集・決定		事業実施			
				区民会議で取り組み報告・検証					

	取り組み内容	具体的な実行方法 (解決策)	実行主体 (協力依頼団体)	実施スケジュール					
				23年 1～3月	4～6 月	7～9 月	10～ 12月	24年 1～3月	
行政の取り組み	若い世代に向けた防災情報の発信 ●若い世代では、防災情報が行き届いていない状況があり、防災訓練の参加者も少ないため対策を講じる必要がある。 ●若い世代では、自分の避難場所・避難所等を知らない方が多く、認知度を向上させる必要がある。	●インターネットを活用して地域で実施される防災訓練等の情報を提供することで、若い世代の訓練参加を促していく。	中原区役所	取り組みの実行			自主防災組織との協議		区民会議で取り組み報告・検証
		●出せの届出や転入手続きの際に配布している「中原区子育て情報ガイドブック」へ防災情報を掲載することで、若い世代の防災意識の向上につなげていく。	中原区役所		子育て情報ガイドブックへの掲載	子育て情報ガイドブックの配布			
		●「防災ネットワークエリアマップ（8地区）」を、各地区内のこども文化センターや保育園などに新たに配布し、掲示することで、若い世代の防災意識の向上につなげていく。	中原区役所				各施設への掲示		
その他	既存制度の連携強化 ●民生委員の独自活動である「災害時一人も見逃さない運動」と行政制度である「災害時要援護者避難支援制度」の連携についての課題解決策を検討する。	【今後の検討課題】							



## (4) 課題解決に向けた取り組み事例

区民会議で解決に向けた取り組みについて議論を行った、「安全・安心のきずなづくり」に向けて取り組みを実践しましたのでご紹介します。

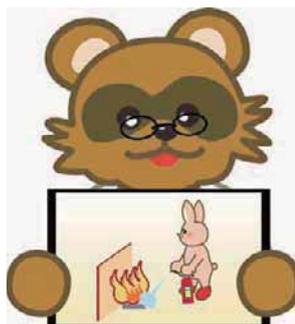
### ■ ぼうさい出前講座の開催

川崎市では、市民に防災の一般的な知識を身につけてもらうため、ぼうさい出前講座を実施しています。区民会議では、防災意識を向上させるため、この講座を活用することにしました。委員の出身団体である「中原区商店街連合会」「とどろき水辺の楽校」「中原区PTA協議会」でそれぞれ実施しました。また、防災に備える意識の低い若い世代にも防災に関心を持ってもらうため、地域で運営されている「子育てサロン」のうち4か所で講座を開催しました。折しも、東日本大震災が起きた後だったこともあり、皆様の関心は非常に高く、災害に対しては日ごろの備えがいかに大切かを熱心に学んでいただきました。



### ■ 中原区防災フェアの開催

区民の防災意識向上を目指して、平成23年11月5日に自主防災組織と区役所の共催で中原区防災フェアを開催しました。警察署や消防署と連携し、災害救助資器材や防災資器材の展示を行い、さらに「減災」をテーマとした防災講演会を実施しました。東日本大震災の影響もあり、区民の関心も高く、多くの人で賑わいました。



## ■ 防災紙芝居の実施

区民会議の審議を受け、中原区役所では、市民提案型事業として、「防災意識向上事業」を実施しました。今回提案を受けて実施したものは、「防災紙芝居」です。これは、地震や津波に対してどのような備えが必要かについて、紙芝居を用いることで、子どもにもわかりやすく解説し、親子で防災へ関心を持ってもらおうというものです。区役所毎年恒例のイベント「子ども未来フェスタ」でも実施し、多くの子どもがクイズに答えながら、楽しく防災について、学んでいました。

この紙芝居は、区民の皆様イベント等で活用してもらうため、区役所で貸し出しをしています。



## ■ 防災ネットワークエリアマップの配布

区役所では、区内の自主防災組織との協働により、区内防災拠点である市立中学校を中心に8つの地区に分けた防災マップ「防災ネットワークエリアマップ」を作成しました。東日本大震災を契機に防災に関する意識は向上したものの、若い世代の住民など、災害時の自分の避難場所・避難所・給水拠点などを知らない人が多くいます。そこで、主に若い世代の親子が利用する保育園やこども文化センターなどにマップを配布し、掲示することによって、避難所等への認識を高めてもらいました。



## ■ 子育て情報ガイドブックへの防災情報の掲載

区役所こども支援室が毎年発行している子育て情報ガイドブック「このゆびと〜まれ!」に防災に関する情報を掲載したページを設け、子育て中に必要となる防災知識を広めています。

区民会議で実施した「地域における子育て応援体制づくり」アンケートでは、子育て情報の入手方法は、このガイドブックからという回答が最も多かったです。子育て中の保護者への情報伝達手段として、ガイドブックは非常に有効でした。

